

平成28年度第5回岡山市総合教育会議

日時：平成29年1月31日（火）

場所：市庁舎 第3会議室

○司会 定刻となりましたので、ただいまから平成28年度第5回岡山市総合教育会議を開催いたします。

本日は、全員のご出席をいただいておりますので、会議は成立しております。

傍聴の希望がありますが、入室を許可してよろしいでしょうか。

〔「異議なし」の声あり〕

○司会 傍聴者の入室を許可します。

〔傍聴者入室〕

○司会 それでは、協議事項に移らせていただきます。

議事の進行は、招集権者である市長にお願いしたいと存じます。市長、よろしく願います。

○市長 はい。それでは、次第に沿いまして議事を進めさせていただきたいと思えます。

今日の協議は、大綱の策定でございます。これまでこの会議では、外部の有識者からの知見や教育現場の方々の声もお聞きしながら、岡山市の子どもたちの現状をどう捉え、何をしていくべきか、皆さんとともに考え、議論してまいりました。会議で出された多くの意見を踏まえて、前回の会議以降、私と教育長と教育委員会の面々でディスカッションを繰り返してまいりました。そして、整理させていただいたのが、お配りしている「岡山市教育大綱」の案でございます。本日、この案について皆さん方のご意見をお伺いした上で、速やかに大綱を策定できればと考えております。

それでは、大綱案について、事務局から説明をお願いいたします。

○事務局 はい。事務局でございます。

大綱案について説明いたします。

お手元にお配りしております岡山市教育大綱の案をお開きください。

昨年度来、総合教育会議では、さまざまな教育課題を取り上げ協議してまいりましたが、大綱にはあれもこれも詰め込むのではなく、喫緊の課題に重点を置いて取り組むべきという考え方で協議が進められ、学校教育について全国的な調査結果を見ると学力と問題行動において全国平均よりもよくない状況が続いていることから、まず取り組むべ

き課題としてこの2点を取り上げることとなりました。

大綱では、1ページにありますように施策の目標を「学力の向上」と「問題行動等の防止及び解決」の2点とし、平成29年度から平成32年度までの4年間において岡山市を挙げて目標の達成を目指していくこととしています。また、喫緊の課題の解決を目指す足元からの改革とともに、中・長期的な視点に立った岡山市の目指す教育について、この大綱では市長室にある犬養木堂先生の書にちなみ、「『樹人』明日の世界に雄飛する人を樹うる」とし、百年先を見据えた人材育成に取り組んでいくことを掲げています。

次のページに参りまして、施策の方針では2つの目標について、それぞれ現状と課題、問題の解決に向けた取組の方向性と平成32年度における具体的な数値目標を示しております。

2ページでは、目標1の学力の向上について、まず現状に関するデータを示し、現状に至った背景として、これまで全国調査の結果の活用が不十分であったことや、教員が互いに授業を見合う、教え合うといった機会が不足していたことなどが挙げられることから、3ページにありますように教育委員会の強いリーダーシップのもと、各学校では校長を中心として組織的かつ実践的な授業研究を行い、授業の改善を進めるとともに、学力調査等の結果を効果的に活用し、子ども一人一人の学力向上を図ることを取組の方針として掲げました。これらの取組を行うことで、平成32年度までに全国学力・学習状況調査の偏差値が小学校で51、中学校で50となることを目標としています。

次の4ページでは、目標2の問題行動等の防止及び解決について、全国平均と比較したデータを示し、課題として中学校の暴力行為の発生件数が5年で半減するなどの成果があった取組を引き続き推進していくこと、また問題行動等への対応に関して原因や背景の分析などの点で学校間の取組に差があり、今後は市全体で課題を共有し、全ての学校で未然防止・早期解決に取り組む必要があることを掲げています。

こうした現状と課題を踏まえ、5ページでは全ての学校でさらなる対応力の向上に取り組むとともに、道徳教育や学級活動の充実、保護者や地域の方との協働を進め、子どもたちの居場所づくりや規範意識の向上に努めることにより、平成32年度までに中学校の生徒1,000人当たりの暴力行為の発生件数が平成27年度の全国平均である9.5件以下となること、小学校の不登校の出現率が平成27年度の全国平均である0.42以下となることを目標としています。

最後のページ、6ページをご覧ください。

ここでは施策推進のために必要な事項として、教職員の働き方の意識改革や社会全体で子どもを育む意識の醸成など、施策を確実に実施していくための環境整備を行うこと、そして最後に施策の実現に向けて、教育委員会は教育長を先頭に強いリーダーシップを発揮して取り組んでいくことと、取組状況について総合教育会議で検証・協議していくことを盛り込みました。

大綱案についての説明は以上でございます。

○市長 少し私も補足をさせていただきたいと思います。

まず、「はじめに」のところを見ていただきたいと思います。

ここで書いてるのが、教育というものが一体何なのか、そして2段落目では岡山市の現状のことを書いております。特に学力の面では平成28年度全国学力・学習状況調査の結果を都道府県の順位に当てはめると45位以下となる教科が見られると、また問題行動も2倍以上ということですが、この2つ目のパラグラフの最後ですが、「これらの結果は、教育委員会や学校はもとより、岡山市としてのこれまでの取組が十分でなかったことを示しており、子どもたちに対する責任を果たしていないと言わざるをえません。」と、「この現状を、打破したい。岡山市の子どもたちが、世界で活躍し得る、その素地を培い、そして岡山市の学校に通ったことを誇りに思える、そんな学校教育、学校風土に変革していかなければならない。」という文章になってます。子どもたちが今のままていくと本当に世界で活躍できるのか、そういう状況にまだいま一つ立ってないんじゃないかと、そういう問題意識から、こういう表現をしているところであります。

そして、「教育委員会が強いリーダーシップを発揮し、全ての学校、教職員が目標達成に向けて、一丸となって取り組んでいかなければならない。」、今まではどうも学校単位であったんではないか、そして教職員一人一人の単位で物事が動いていたんではないか、そういう問題意識を持っているところであります。こういう問題意識を前回の会議以降、教育長、教育委員会の事務局の皆さん方と一緒に今までずっと議論をやって、この形を整理させていただきました。もちろんここに至る過程の中で、今回の教育委員の皆さんのご指摘、また有識者の皆さんのご指摘を踏まえて、こういう形で整理をしていったというのが思想の根本であります。あとは、各論については、さまざまな今までの議論をここに整理をさせていただいたということでもあります。

問題なのは、「はじめに」のその最後に出てますけれども、この総合教育会議の場でも、当初は相当数子どもの貧困の問題であるとか発達障害の問題であるとか、こういっ

たことについて、いろんな資料を出し合いながら議論させていただきました。そういう点については、もちろん非常に重要な問題であるという認識をしております。ただ、全ての問題をここに網羅して、明日からどんどんこれでやっていこうというところは、当然ながら対応してはいかなければならないんですけれども、教育大綱という中では、とりあえず今の段階はこの2つの問題を集中してやる。そして、今後逐次そういう福祉の問題等々について、この総合教育会議でも議論をしていただいて、大綱の見直しを図っていけばいいのではないかなという思いで書かせていただいたところであります。

それからあと、こうやって進めていく上で、教員の負担の軽減とか、そういう話も多くあったと思います。最後の6ページでは、そういった今までの議論を踏まえた整理を少しはさせていただいているところであります。これが十分なのかどうかという点についても、また触れていただければというように思います。

それでは、この大綱案について、ご出席の皆さんからそれぞれご意見をいただければと思います。

今日はいつものように中学校会の藤井会長、そして小学校の校長会の薄会長、またベネッセの西島さん、梅田さんにもご参加をいただいているところでございます。

もう率直な意見をどんどん言っていただいて、また意見を踏まえて修正をさせていただければというように思います。誰からでも結構ですから、よろしく願い申し上げます。

塩田さん、どうですか。

○塩田委員 今説明をお聞きし、またこれを見させていただいて思ったことなんですけれども、1ページ一番下にある「『樹人』明日の世界に雄飛する人を樹うる」という言葉はとってもいいと思っています。「樹人」という犬養木堂先生のこの書も大変インパクトがあるというふうに思いました。雄飛するという言葉なんですけれども、ここから自立に向かって雄々しく羽ばたいていくとか世界に向かって飛び立っていくという、そういうイメージが湧いてきます。以前から私は変化する時代に対応するような力を持ったたくましさというものを言わせていただいたんですけれども、この雄飛するという言葉の中にたくましさとか頼もしさというものがあらわれていると思いました。

それと、これまでいろいろな課題について話し合ってきて、その中で目標が2つ絞られて出てきたんですけれども、焦点がぼやけるという点で目標を絞るというのはいいことかと思うんですけれども、私としてはもう一つ第3の目標があってもいいのか

なというふうに思いました。それは先ほども市長さんが言われたように、6 ページ目の特に4 番目に書かれている社会全体で子どもを育む意識の醸成のところですか。やはり「樹人」といって人を樹うるということで一番大切なのは土の部分だと思うんですね。ぶれない軸を持った幹、太い幹を支えるための土づくりというのが、こちらに挙げられている環境整備だと思うんですけども、それは学校現場だけで行われるんじゃないかと、やはり地域みんなで土を耕していかなきゃいけないというふうに思うんです。

ですから、目標の3 として、市民協働による教育環境の整備というのを挙げていただきたいなというふうに思いました。皆さんが協力するということが学校の教師の方たちの子どもに向き合う時間というのが確保できるでしょうし、授業改善等で勉強する時間というのでも確保できてくると思います。そういうふうになると、学校現場というものが子どもにとって居心地のいい場所になってくるんじゃないかというふうに思うんですね。ですから、是非協力して土を耕すというところに力を注いでいただきたいというふうに思っています。

岡山っ子育成条例の中にも4 者が協力して教育を支えていくという言葉がありましたので、是非家庭、学校現場、それから地域、事業所というのがスクラム組んで教育を支えていくという言葉が入っていてもいいのかなというふうに思いました。2 つだけだと、岡山市の教育というのは、もう教育現場に任せておけばいいのかなとか教育現場の問題ですよというふうに市民の心が離れないかなという、そういう危惧もしております。そういったところをちょっと感じました。

○市長 いい指摘をありがとうございました。

藤原さん、どうでしょうか。

○藤原委員 まず、「はじめに」のところの最後の段落に先ほどおっしゃられた「支援や配慮を必要とする子どもへの教育と福祉とが連携した」という、この一文が入ることはとても心強いことだなと思いました。施策そのものは、もちろん大綱ですからピンポイントに焦点化しないといけないんですが、岡山市の目指すところとして全ての子どもたちを大事にするというのがこの一文にあらわれてるので、これはとても市長さんのお言葉でもあるし、これからあとすごく元気のもとになるんじゃないかなと思いました。

そして、施策の目標のところ、先ほど目標3 というお話も出ましたが、私のほうはこの目標1 と2 のところに少し2 行でもいいから、何かそれをあらわす言葉、データの的には岡山市はこういうことができてないから、これを目指すんですよということ

が、この短い、例えば「競い合う、高め合う」というフレーズ、それから「認め合う、共に生きる」というフレーズ、これに対する少し補足があったらいいのかなと。

それからもう一つは、学力の向上のところにもう一つ入れてもどうかと考えたのが、「競い合う、高め合う」というのは、これは全て自分と他といたら自他の他のところとの関係になると思うんですよね。岡山市の子どもたちは白紙解答が多いとか、そういうベースを見ると、自分へのチャレンジというのか、挑戦というのか、意欲というのか、そういうことが少し足りないかなと。としたら、この切磋琢磨してお互いに高め合うとともに自分を高めるという挑戦的なことがあっても、チャレンジ精神が書かれていてもいいのかな。特に雄飛ということでは必要かなというのを思いました。

そして、目標2のところの「認め合う、共に生きる」というのは、先ほどの根本にあるのは市長さんの「はじめに」の言葉があると思いますので、そこに2行でもいいから、多分この問題行動に走る子どもたちの背景には自分ではどうしようもないようなところもあると思うので、そのあたりを1行か2行か書いてあれば、わかりやすいのかなというのを感じました。

○市長 藤原さん、その2行のイメージというのは、もう少し詳しく具体的に言っていたでしょうか。

○藤原委員 例えば、学力の向上というところでは、授業は学校で学ぶものである、しかしこれからアクティブ・ラーニングなんかの言葉も出てきてますから、お互いに切磋琢磨して高めていくとともに自分の目標に向かって頑張りぬく、そういうことが大切ですか、そういうイメージで言いました。

○市長 はい、ありがとうございます。

じゃあ、奥津さん、お願いします。

○奥津委員 目指す教育という、「樹人」という、先ほど塩田委員のほうからも非常にいいテーマだというふうに、私もそのとおりに思ってます、植物というか、木に例えて育てていこうということなんですけど、やはりその中で一番重要なのが、さっき土とおっしゃって、皆さんいい土の中で根を張ると。どんな枝や葉の問題よりも、しっかり将来に向けて人を育てる上では、やはり根をしっかりと張っていくということが非常に重要なんじゃないかと。それこそ木に例えるものでは、そうなのかなと思います。

じゃあ、根とは一体何なのかと考えたときに、学力の向上のところという、恐らく勉強したり学んだりという習慣をつけたり、学ぶことが必要だ、大切だというような意

識とか姿勢とか、そういったものをしっかり一人一人の子どもに習得というか、身につけさせるというようなことが非常に大事というか、そういうことが根の部分になるのかなというふうに思います。

それから、問題行動等の防止の点でいいますと、私の考えとしては、人間関係ですね、友達だとか、いろんな社会の人だとかという人間関係をしっかり良好なものをつくっていくと。そういったノウハウというか、コツとか、いろんないい関係性を保つというか、つくる上でのこれもやはり姿勢とか意識のようなものを持たせると、それを学んでいくというようなことが根に当たるのかなと思います。そういった意味で、施策の方針の中で、そういった部分を意識したような形で取組の方向性の中にあらわれていけば、スムーズにつながるのではないかなというふうに思いました。

○市長 奥津さんと塩田さんのご発言があったんで、ちょっとお伺いをしようと思うんですけども、要は社会全体で子どもを育む、育てる、当然ながら必要なことだと思うんですね。この塩田さんのご発言の中で目標の1、2にあわせて3番目という話があったんですけども、社会全体で子どもを育むというのは、学力の向上にしる、問題行動の防止にしる、それを両方とも、そういう要素を育てていく。奥津さんの言葉をかりれば、社会全体の根になっていく。そういう性格のものなのかなとも思っていて、それが目標として設定するものなのか、目標を到達する上で必要不可欠なものなのか。どっちかというところ、ここの整理は目標を設定するというのではなくて、この目標の1と2を到達する上で必要不可欠なものという、そういう整理をどっちかというところ、こちらではしてるんですね。だから、それを変えたほうが良いということなんですかね。そのところのコメントをお願いできればと思います。

○奥津委員 今私が言ったのは、真の目標というか、本当こうあるべきだという目標であって、それはなかなか掲げたとしても何でもって達成するなんて、そもそも根がどこまで伸びてるかなんてことは見えないわけですし、見ようと思ったら、それこそ倒れちゃうわけで、それはなかなか目標として具体的に掲げることは余り意味がないのかなと思います。ただ、何を目指しているのかというところは意識することが必要なんではないかという意味合いで、逆に言うと、ここに掲げてる目標が、とにかくそれを達成するために何をしてもいいんだという意味での目標とはちょっと違うんじゃないかなという、そういうニュアンスというか、意味合いです。

○塩田委員 本来なら私は目標1にその土を耕す部分を持ってきてもいいのかなというふ

うに思っていたんです。それができれば、ここに掲げられている目標 1、2 というのは達成できるというふうにもなるのかなというふうに思います。なので、そこの大枠のところがあって、その上での目標 1、2 という考え方が必要だと思うんですけど、ただこれをいただいて見たときに 2 つの目標に絞られているというところを市民一般の目から見ると、何となく、あ、それは教育は、もうじゃあ教育現場に任せておけばいいのかなとか、教育の問題でしょうというふうに少し意識が遠ざかるような気持ちが私自身がしたんですね。

だから、何となくやはり学校現場というか、教育現場に向けて自分たちが支えているんだという、そういう学校現場を孤立させないとか支えている、みんなでやっというふうな、そういう意識を市民の方に持っていただきたい。そういうところをこの目標からは捉えられないかなというふうに思ったところです。

○市長 「樹人」というのが、そもそも社会全体で人を育てようという、そういうことなんで、ただそういう要素がこの施策の目標のところの最初の目標 1、2 とこういうふうに端的にぼんと書いちゃうと、どこか飛んでいっちゃうというような印象を受けちゃうということかもしれませんね。後でまた議論させていただくとして、石井さん、はい、お願いします。

○石井委員 今のところの議論とは少し外れてしまうんですけども、これまでの会議を経過して、今回ではより具体的な取組の内容が記載されてるということが、これを実際に P D C A で回していくというときに、わかりやすい形になっておりますし、取組にしやすい内容になっているのではないかなというふうに感じております。

それから 6 ページに、市長が述べられたとおり、特にこの 1 番目の教職員の方々が生き生きと子どもの指導に当たれるための教職員の働き方についての意識改革ということで、これはもう学校現場以外も含めて、産業界も含めて、非常に今大きな取組をしなければいけない状況になっているというふうに認識しておりますので、ここに具体的にこのような形で記載されていることは非常にいいことかなというふうに思っております。

それからまた、触れられた貧困とか障害については、私個人的な感覚ですと岡山市ではこれまでも貧困や障害に積極的に取り組んできていて、この中の目標 1、2 の中には、あるいはそれ以外のところではなかなか触れられてはいないんですけども、それはそれで継続して取り組んでいくという、そういう位置づけにあるものかなというふうに認識をしております。

それから、具体的により行動が示されて、書かれているんですけども、この4年間の中でこのPDCAを回していく中で、いや、もっとこういうやり方したほうがいいんじゃないかとか、そういう発見が多分あるんじゃないかなというふうに思っておりまして、そのあたりで、例えば1年たったときに何かこの取組の内容を若干修正するとか、そういうことができるような仕組みになっていったほうが、よりいいんじゃないかなというふうに感じております。

それから、学力の問題については科目が限られているということもあるかと思うんですけども、国語、算数というのがより基礎的な内容ですし、この科目のことは、ほかの体育だったり美術だったり、それ以外の科目へも十分波及していい効果を上げるんじゃないかなというふうに思っておりますので、科目が限られてる点については、そういうふうに考えております。

あと、すみません、つけ加えてになるんですけども、これを実施していくに当たって、先生方も、それから市民の方々も、より主体的に取り組んでいただくに当たって、岡山市の教育状況としていいところもあるんだということも、是非ここに書くということとは別にして伝えていただきたいなというふうに思います。それは全国調査の中で学校に行くのが楽しいというふうに答えている生徒とか児童が全国平均と比べると非常に高い数字になっていて、それと学力がひもづいているのかどうかとは別にして、それはすごいそれ自体が価値があることだと思いますし、先生が生徒や児童のいいところを認めてくれるという指標についても、これも全国と比べても相当いい数字になっているわけで、このこと自体がすごく価値があるのではないかなと。そのこと自身に先生方も市民の方々も自信を持っていただきたいなというふうに思いました。

○市長 ありがとうございます。石井委員の指摘の中で、この大綱の見直しについての話がありましたけども、我々はこういうふうに考えております。

6ページの最後をご覧くださいませでしょうか。

施策の実現に向けてということの最後の2行ですけども、「市長は、教育委員会及び学校の取組状況について毎年度報告を求め、総合教育会議において検証・協議します。」ということを整理させていただいてます。調査状況だとか問題行動とか、そのほか教職員の環境の問題であるとか、こういうコミュニティ・スクールの問題であるとか、いろんな問題が多分いろいろと変化してくる、こういったことをこの場で議論させていただきまして、それでこの施策の目標の1ページですね、1ページの上半分の最後

の2行ですが、「また、今後における総合教育会議での協議を踏まえ、新たに施策の目標や方針を設定するなど、必要に応じて大綱の見直しを行います。」ということで、私は変えていけばいいんじゃないかなと。

根本が変わっちゃうと、それは先生とかに混乱が見えてマイナスになってはならないと思いますが、ただ貧困の問題そして発達障害等々の問題、ここのところはまだ整理もできてないわけですから、こういったところについては新たにやっていかなきゃいかんでしょうし、それから過程の中で不都合が生じたときは見直しはやっていくべきじゃないかなというように思っております。

じゃあ、とりあえず一通りの意見をいただいて、それからフリーのディスカッションに入りたいと思いますんで、藤井さん、よろしくお願いします。

○藤井中学校長会長 失礼します。もうとてもよくまとまっとなって、素晴らしいものができているなという感じがいたしました。目標1、目標2という2つに重点を置いていくということは、前回、前々回の話から大筋が見えていたので、とてもこの中心になっていると思います。

1ページですけど、岡山市が目指す教育「樹人」ということが一番下へ書いてあるんですけど、もしかしたらこれが一番上にあるほうがいいのかかと、ふと思いました。レイアウトの問題ですけど。岡山市としては、こういう思いがあるから、でもまず今はこの目標だろうというふうで1、2があると流れがいいのかなというふうにちょっと私自身感じました。

あとは、もう本当に教育委員会と学校が一緒になって努力をしていくと、頑張っていくということしかないのかなという気がしております。

○市長 特に今回の議論で、その議論の対象の多くが中学校のことでありますから、中学校会の会長さんがそうおっしゃっていただくというのは非常に心強い限りであります。では、薄さん、お願いいたします。

○薄小学校長会長 ありがとうございます。私もこの「はじめに」の中の真ん中から少し下になりますが、「岡山市の子どもたちが、世界で活躍する素地を培い、岡山市の学校に通ったことを誇りに思える、そんな学校教育、学校風土に変革していかなければいけない。」という、この2行を小学校長会で共有いたしまして、具体的に具現化していきたいと思っております。平成30年から新学習指導要領の先行実施になりますので、来年度平成29年度いろいろ現場のほうで研究、研修が進むと思います。授業を見せ合う、見

合う、そういった中で授業力をつけていければいいかなと思っておりますので、教育委員会との連携を密にしながら頑張っていきたいと思っております。

この不登校の問題につきましても、3日欠席をさらに全校に周知いたしまして、取組を進めていきたいと思っております。

○市長 はい、ありがとうございました。では、西島さん、お願いします。

○ベネッセ(西島) 失礼します。先ほど市民協働が目標なのか根っこなのかという議論の中で感じたことなんですが、例えばですけども、私どもの会社では「よく生きる」という企業理念があり、余り外には出さないんですが、「世界で最もファンが多い会社になりたい」というビジョンがあり、そして事業の目標があるというふうな形で整理をしています。

「はじめに」の第2段落のところに書かれております「岡山市では、教育基本法が掲げる『人格の完成』を目指し」、人格の完成というのがこれが恐らく教育の理念だと思います。その次の「一人一人の子どもが、知・徳・体の調和のとれた、自立に向かって成長する子どもに育つことを願って」、これは中身としては人を樹うると同じことを言われており、これがビジョンであり、それとともに「市民協働で取り組んでいる」というのも、市民協働と「樹人」というのが一体になっているというビジョンであり、目標は喫緊の課題としては学力問題のことであるという整理をするとわかりやすくなるのかなというふうに思い、先ほど藤井校長先生もおっしゃいましたが、ビジョンとして人を樹うるあり、そこを支える市民協働をもっと活性化していこうというビジョンを持っている、その上で喫緊の課題の目標が1、2であるという整理の仕方だと何かわかりやすくなるのかなというふうに感じました。

○市長 書きぶりとしては、今、藤井さんがおっしゃったり西島さんがおっしゃってるとおりなのでしょうね。「樹人」が前に出てきて、これ、「樹人」というのはまち全体で人を育てていこうと、育てるのがまちを本当に強くし、そして人を育てていくということ、これは社会全体で育てようという、そういったことになっていくわけですから、もう塩田さんのおっしゃったとおりなんで、それがあって、ただ今は短期的な目標として目標1、2をやってみようよということで、順番が逆なのかもしれませんね。私もそれは読んで、皆さんの意見を聞いてても感じました。それで、社会全体で育てていくという要素が出てくれば、塩田さんの教育界を孤立させるというか、そういったニュアンスが少し遠のいていくのかなと。

○塩田委員 そうですね、はい。

○市長 はい、じゃあ最後、梅田さんの話を聞いた上でフリーで入りたいと思います。

○ベネッセ(梅田) 初め大綱のほうを拝見させていただきましたとき、かなり具体的な大綱だなというふうに感じました。ただ一方で、他の政令市の大綱等を拝見しますと、抽象的な表現が多かったりですとか、あと柱の数が結構多かったりといったところで、読み終わった後に余り心に残りにくい大綱が多かったなというふうな印象を持っています。そういった意味では、今回の岡山市の大綱につきましては、かなり具体的であることであったり、あと柱が2個というところで、これは政令市の中で一番絞り込まれた柱の数になります。そういった意味では、市民の方々にもわかりやすく、また伝わりやすいんじゃないかなというふうに感じました。

そしてもう一点としまして、今回の目標であります学力の向上と問題行動といったところでございますけれども、これまでの文科省の研究等でも学力と世帯年収といったところがかなり関係が強いというところの研究等もございます。そういった意味では、当然これら2つを達成していくためには、先ほどもお話ありました貧困の問題ですとか、そういったものもかかわってくるかと思えます。そういった意味では、この2つの目標というのは独立してそれぞれ解決というものではなくて、やはり両輪として解決していくような課題ではないかなというふうに感じました。

○市長 それでは、教育長から今までの意見を踏まえて、コメントしていただいて。

○菅野教育長 コメントの前に藤原委員が自己を高めるということで、チャレンジ精神とか、そういうことをちょっとおっしゃったんですけれども、3ページの学力のところ、子ども一人一人の学力向上PDCAサイクルというところで、私はずっと一人一人の学力を向上させるということが学校としては非常に大きな課題に目標にもなるというものだと思っはいるんですが、こういう観点ではなくて、藤原委員が言われたのは立派な人間になろうとか、もっとすごい大きな目標のことを言われたんでしょうか。

○藤原委員 学力向上に書いてあるので学力を中心にはするんですが、そのことが結果的には雄飛する人というところまで結びつけばいいかなと思いました。

○菅野教育長 はい、ありがとうございます。

これは私が教育長に就任した9月にも市長に話をしましたが、温かい国際人の育成ということで、この世界に雄飛するというのは、まさに私も思う温かい国際人ということに相共通する部分でありまして、とてもすばらしい大綱が今できつつあるなというこ

とを思っています。9月に就任して以来、市長の教育に対する非常に熱い思いをこの総合教育会議でもそうですが、準備の市長レクするときでも非常に熱い思いを感じておりました。時には、もう正直に言わせてもらいますが、え、そこまでやるのとか、そこまで言わんといけんみたいなことを思ったことも正直あるんですけども、それは市長が岡山市の子どもたちを本当に幸せにしたいという強い思いの裏返しであろうというふうに私は受けとめております。

皆さんおっしゃってくださったように、岡山市の教育委員会としては岡山っ子育成条例という議会で定めた条例があって、その考え方、理念ということも大切にしていっていきではあるんですけども、それと相矛盾するものでは全くありませんし、とりあえず平成32年度までの目標として、しっかりこの目標を到達できるように頑張っていきたいと思っておりますし、今日のお話の中で教育委員会や学校を孤立させてはいけないという温かいお言葉もいただきました。これは本当にそういうこともしっかり頭の中に入れて、いろんな施策を打っていかねばいけないということも考えております。

それから、目標1と目標2が何か別々のように思われてもいけないので改めていいますが、これはもう密接に結びついているというふうに考えています。学力向上、これは私が校長をしているときにもずっと言ってきましたが、やはり教員の一番の使命は子どもたちの学力の保証であり、学力の向上であるということを書いてきました。それがしっかりそういう教員の姿を見せることは、子どもたちの問題行動の防止また解決にもつながるんだということは常に訴えてきたところですので、決して分かれていることではない。ただ、かなりこれはハードル高いことだと思いますので、しっかり取り組んでいきたいというふうに思っています。

○市長 では、もうできれば当面の大綱を作成するに当たっての最後の総合教育会議にしたいと思っておりますので、もう何でも今言い足らなかったこと、そしてそれぞれの方のご意見も出ましたから、それらに対する話、何でも結構ですんで言っていただければと思います。先ほど塩田委員、何か手を挙げそうになっておられましたから、どうぞ。

○塩田委員 そういうわけじゃないんですけども、私の中でもちょっともやもやしていた目標3なんですけれども、今、西島さんが整理をしてくださって非常にクリアに腑に落ちるといえるか、形になりました。それと同時に、その上にあります「オール岡山市」というところを皆さんが理解をして支援をしていくという形でできたらいいかなというふうに思っております。

○市長 この「オール岡山市」をもう少し強調するという面では、やはり前に行って、藤井さんや西島さんがおっしゃったように、そこをもうちょっと強調する必要あるかもしれませんね。そこは最終案を作成するときにちょっと整理させていただきたいと思えます。

そのほかどうでしょうか。

○藤原委員 6ページの施策の推進のための必要な事項というところで、施策の実施に当たっての環境整備、1、2、3、4つ掲げてあるんですが、これを2番目と3番目を統合して学校力を高めますというふうな雰囲気の一つあればいいのかな。感想なんですけども。多分学校がチーム学校になれないから力が発揮できない部分があったりするので、そこを高めることをサポートしますというふうなので言えば、2番目、3番目は学校力も高めることに関係してるのかなというのをちょっと感じました。

それからもう一つは、文字どおり環境整備といったら、ここに書いてあるのはソフト面が全てなんですけど、これが大綱ということで岡山市全体で出すということになると、子どもたちの学習環境を高めますと。今安全な学校ということで耐震をすごく頑張っていて、かなりもう進んで終わりに近づいているかなと思うんですけど、例えば耐震がある学校で今回エアコンの整備の研究のような予算も少しつくようなことを見える化の中でちょっと読みましたが、そういう感じで子どもたちの学習環境もフォローします。なかなか予算を伴うことで書きにくいこともわかるんですけど、せっかく環境整備という、その言葉で言えば、ソフトとハードと両方で岡山市の姿勢が示せたらいいかなというのをちょっと感じました。

○市長 施策の実施に当たっての環境整備、やはり具体的に何を变えるのかというところが私は必要かなというように思ったんですけども、先ほど藤井校長が非常に前向きにやってくぞという感じを出していただいたんで、うれしかったんですけど、例えば最初のところで「校長は」という主語がありますよね。だから、部活動の週1以上の休養日、これ、まだ設定してないところもあるんですね。78%ぐらいはやってるんですけど、20%超えるところはやってない。これはもう必ずやろうよというようなことで、ここでの教員の負担軽減みたいな話があったんで、ここを最初に書かせてもらってるということ。

それからあわせて、学校力という表現でもいいと思うんですけど、やはり研修もちょっと足りないんじゃないかというようなことで、新規に動かしていくというようなこと

で、そういう新規性みたいなものがあったんで、順番をこういうふうにしてるんです。

私も学習環境みたいなものは、その中に書いてもいいと思うんですけどね。社会全体で子どもを育むというところから入っていくと、今回やはり教育委員会のリーダーシップでどんどん動かしていくぞというイメージがちょっと希薄になっちゃうんですかね。

○塩田委員 すみません。よろしいでしょうか。

○市長 どうぞ。

○塩田委員 その項なんですけれども、「家庭・学校・地域が協働し」となっているんですけれども、やはりここには事業所を入れていただきたいという。

○ベネッセ(西島) 今の件でよろしいでしょうか。

○市長 はい、どうぞ。

○ベネッセ(西島) 失礼します。この原案を作成されるに当たって、恐らく教育委員会の皆様も入って検討されたと思うんですが、一般に教育委員会の名前で出される文章では、学校や教育委員会が何をします、市民の皆様も是非ご協力くださいというふうに市民のことを最後に書くことが多いので、その意識でこういう流れになっているのではないかとこのように推察をします。今回は市長のお名前でお出される文章ですので、まずは市民にメッセージというふうなことで最初に持ってこられるというほうがインパクトがあるといえますか、メッセージ性が強くなるかなというふうに思います。

○市長 ありがとうございます。

○藤井中学校長会長 すみません。環境整備のところの一番下のところで、地域協働学校という話も出てきたり、連携という話も出てきたりしてるんですけど、私たち今まで取り組んでる大きなことに関係機関との連携というのが強くあるんで、それによって問題行動が減少したという実績もあるので、ここは継続していきたいというか、継続すべきことであるという感じを持っています。ですから、環境整備のところの社会全体で子どもを育む意識の醸成というところに、地域協働ももちろんですけども、関係機関、警察とか保健所とか、それからこども相談所とか、そういうところと今まで強くやってきたので、それをつけ加えていただくと非常にありがたいです。

○市長 はい。

○奥津委員 すみません。もうほとんどが軸だけの問題なんですけども、施策の目標として2つ目標を掲げて、その中でそれぞれの目標がさらにあって、目標がダブってる形になって、もうちょっと何かいい表現がないのかなと。意味的にはよくわかるんですけど

れども、何となく目標の上に目標があるというような形式になっちゃってるので、何かいい表現がないかなとちょっと今ふと思ったんですけれども。

○藤原委員 すみません。その件に関して。

○市長 はい、どうぞ。

○藤原委員 私もちっと気になったんですが、例えば3ページのところにある目標のH32というのは、多分指標じゃないかなという気がしたんですよね。目標があって目指すというのは、数値目標がここ書いてあるので、ここには定量的な指標を書かれたのかなという気がちょっとしました。もう一つは、せっかく市長さんが出す教育大綱であれば、もちろん評価をしないとけない、何かの形でというのはあるんですが、ここにある今は目標として掲げられているのは、すごく具体的でわかりやすいんだけど、いわば教育委員会や学校の中で目標と掲げるような類のものかなと。

ここから先に市全体でいえば、例えばその今の目標を学力の向上と掲げるのであれば、もう少し定性的な指標というんか、評価のようなものがあればいいのかな。同じように2のほうも、例えばここだったら学力がついていることをどのくらい実感できているかとか、それから学校に安心して通っていることができるかとかという満足度に近いようなものがあってもいいのかな。ここの指標の次につながるものとして、ちょっと思いました。今の同じ目標、目標ということのわかりにくさとともに、そういうことを感じました。

○市長 はい、ありがとうございます。ちょっと検討させていただきたいと思います。

今目標の話になったんで、それはどう表現するかは少し考えさせていただきたいと思いますが、この定量的な目標値、偏差値を小学校51、中学校50にしていく、これは現状を見ていただければ、左の上のほうに書いてあるのが実態になっているというようなこともあって、こういう表現にしております。これについてのご意見はよろしいでしょうか。

まず、順位ということにできなかったということと、そして中学校は平均の偏差値にさせていただいた。小学校は今偏差値50ですから、1つ上げていこうということにさせていただいているわけでありまして。これも多分最終的に発表すれば議論を呼ぶことになるだろうというように思いますけれども、これは最終の目標であるわけではありません。平成32年度ということで、今の現状から考えていくと現実的な姿を我々としては示させていただいている。ここで偏差値52とか全国1位とか書くことはもちろんできるわけで

すけれども、それをやることによって、どういう意味が出てくるのか。子どもたちに我々として当面一体どこまでの責任を負っていくのか。

やはりこういうふうに掲げた以上、我々としてはこの目標は達成しなければならないものだろうというように思って、そういう面での現実的な姿を整理させてもらったわけです。暴力行為についても同じです。全国レベル、随分これは学校の先生方、今、藤井さんがおっしゃったように関係機関との協力も得て、右肩下がりに大きくなっています。全国の動きがほとんど横ばいのところが、いい方向に動いているところでもあります。これを全国平均以下にしていこうというところで今やっているわけですが、この両方の目標の具体的な値について何かご意見があればお願いしたいと思います。

○奥津委員 もう私個人的な意見としては、こういった定量的な目標を出すこと自体にはやや疑問は正直感じております。ただ、順位を出すとか、そういったことよりは、まだこちらのほうがいいかなと。順位というよりは、こういうような形で出すほうが、まだ納得というか、了解はできるかなというふうには感じているところでもあります。

○市長 それ、何で順位がダメなんですか。

○奥津委員 やはり順位となると、かなり相対的という、これも相対的ではあるんですけども、もうそれこそほかの県との競い合いみたいなところになっていきますし、状況状況によってはかなり変わってきますので、これは全国的に全体の位置関係として、どのあたりにあるのかということが、こちらのほうが客観的なことがあるのかなと思いますので、また定量的なものを出すという意味では、こういったことにせざるを得ないのかなというの思っております。

○市長 今の点でのご意見、何かございますでしょうか。

はい、どうぞ。

○塩田委員 私も偏差値というところで少し緩和はされているのかなというふうには思うんですが、これの目標値を見させていただいたときに、岡山市の教育振興基本計画なんかこういった目標値というのは定められていて、また年ごとのアクションプランにもこういった目標値が定められているということを考えると、何か大綱にあえて数値を入れる必要があるのかなというふうには思いました。もう少し、先ほど藤原委員さんが言われたような定性的な指標、特にその上に子ども一人一人の学力向上PDCAサイクルというふうにするのであれば、子どもたちがどのくらいの満足度を持っているのか、保

護者たちがどういうふうな満足度を感じているのかというところを測るというのも一つの方法かと思います。

○市長 ほかによろしいでしょうか。

○石井委員 私個人としては、この数字目標というのは総合的な学力を調査する上で国が考えて、その調査で重要な学習の到達度を示すという観点で言えば非常にわかりやすいところですし、これが全てでは当然ないと思いますし、これを備えた上で、さらにその先に自分自らの人生を切り開く力だとか、よりよい社会づくりに貢献するような精神とかというものを持っていかないといけないと思うんですけども、それをするに当たって、基礎的な部分で非常に大事なところであるので、その部分でよりよくしていくということで、この数字目標を設けていることはいいのではないかなというふうに思ってますし、実現可能性を踏まえた上での設定値というふうに理解をしております。

さらに、じゃあその先に、例えば今後、じゃあ51を目標にして、その後、じゃあ53になって、55にして、60にしていくのがいいのかどうかというのは、改めてそのときに議論が必要なのではないかなというふうに感じております。それとあと一方で、この数字をどんどん出していくと、ほかの地域では余りにも競争が激化することでテストを休んでもいいですよとか、そういうことが問題に、熾烈な競争をおおるといような状況もあるというふうに伺ってますので、その点は配慮をしなければいけないかなというふうに感じております。

○市長 ちょっとこの点について私の考え方を申し上げたいと思います。

塩田さんがおっしゃったように、この数字をどこで書くかというのは議論があるだろうと思います。もちろん教育委員会で書くというやり方もあると思いますし、ただここは教育委員会が書くべきものと市長が書くべきものというは必ずしも整理がされてるわけではないと思うんです。今の状態を踏まえて市長としてどこまでやろうとするのか、そういうことをみんなの意見を踏まえながら整理をして出していくというものですから、分けけてもいいんですけども、私はこれは私の思いとして定量的なものは書かせていただきたいなというふうにまず思います。

それで、この偏差値がいいのか順位がいいのかというのがよくこれ、議論になってくるんですね。県も順位で出しているところがあって、私もその順位というのは私非常に重要な指標だと思うんです。そこは相対的なものであるわけですけども、要するに自分の立ち位置というのが一体どこにあるのかということが明確にわかってくるわけであり

ますから、先ほど言った世界で活躍する素地を培っていくためにも、一体自分の立ち位置というのがどこにあるのかということ客観的に理解をする。また、先生たちも子どもたちの立ち位置というのがどうなのかということきちっと理解をする。そのためには客観的な定量の値というのは、私は非常に重要なんじゃないかなというように思っているんです。

したがって、先ほど言ったように国語も数学も40位台に推移してるというのを示したのは、そういうことであるわけでありまして、国語のBに至っては都道府県レベルでいくと最下位よりも少し離れた位置に岡山市の子どもたちが置かれている、そういうことはきちっと理解すべきだと。理解した上で、一定のところまで世界で活躍できるような素地はつくってあげようじゃないかというのが我々の意図であるわけでありまして。ただ、ここで、例えば1位ということをやったとしたら現実的かどうかということもありますし、石井さんがおっしゃったように余りに競争をあおり過ぎると。あおり過ぎる必要は全然ないと私もそこは思います。

というところから見て、この偏差値の50というのは、中学校にとってみて今客観的な位置として40位台に低迷している我々というのは、その子どもたちが日本標準の、もちろん全体としてですよ、理解度を得てないというところは、やはり反省して一定の水準までには先生自ら頑張って、社会含めて頑張っていくって、そこまで持っていこうというのは、私は今岡山市として表に出していきたいなというように思っているところなんです。

私からは以上です。

○ベネッセ(西島) よろしいでしょうか。

○市長 はい。

○ベネッセ(西島) この偏差値の意味がどこまで読まれる方に通じるかなんですが、偏差値でいいますと大学入試ランキングが概ね市民の皆様の頭の中にあって、大学によって偏差値が8ぐらい離れていても全然違和感がないんですが、全国調査の場合はほとんど各県差が大きくなり、例えば今2ページの上のオレンジ色の表のB問題のところ、中3・国語、平成28年、偏差値48で、順位に当てはめたら47であるということで、2ずつしか、今のこの2ページですね、大綱案の2ページの施策の方針の上のほうにある表のB問題の偏差値の推移ということで、平成28年の中3・国語をご覧になりますと偏差値が48、括弧の中、47位ということで、最低でも2しか50から離れない。

逆に言いますと、上も52か53、トップでも52か53であるということで、ほとんど差がない偏差値であるということで、え、1しか上げないのかではなくて、1上げるって相当大変なことだと思うんですね。そこが何かうまく市民の方に伝わる、あるいは先生方に伝わるような表現ができたらいいなというふうに思いました。

○市長 この資料集は配られてます。2枚目が参考2というのが、全国学力・学習状況調査、平均正答数云々で、確かにそうなんです。こういったことで市民の皆さん方、メディアを通じてわかってもらうようには努力をしたいと思うんですが、例えばどの教科も同じなんです、偏差値50というと17、8位から25、6位まで、ずっと偏差値50なんです。そこで、逆に言うと、順位を争うとなると、17位と25位とといったって、それは一体何なんだという議論になってくるから、まずは平均としてやりましょうということなんで、西島さんがおっしゃってるのは1つ上げるのはすごい大変だぞというのをどうやって表現するか。いい知恵ありますか。

○ベネッセ(西島) そうですね。考えたいと思います。

○市長 受験というか、そういったものだけが教育というふうには私自身も思っているわけではありません。ただ、今の現状を見てみると、やはり改良点はあるだろうと。改善をしなければいけない点はあるんじゃないかと。それが子どもたちを世界で活躍できるように育てる大人の責任なんじゃないかというように思っているわけでありまして。さまざまな人格形成とともに、こういった学力の点についても、また学力と暴力行為等々は、こういうのは結びついているわけでありましてから、子どもたちを岡山に生まれて誇りが持てるような、そんなことにしてあげたいなという思いで、こういう整理をさせていただきました。

社会全体で育むというのは、もちろんのことであるんですが、その中でもやはり子どもたちと最も大きな教育という面で接触をするのは学校の先生であるわけですから、学校の先生方に我々社会全体の思いを伝え、そして子どもたちを育ててもらう。そういったことにこの大綱以降、教育長を中心として教育委員会の強いリーダーシップでもってやっていただきたいなというように思っているところであります。

今日いただいた意見は整理をさせていただいて、また皆さん方にも最終版をお示しをさせていただきたいと思います。そして、近日中に大綱として発表させていただきたいというように思いますので、よろしくお願いを申し上げます。

○藤原委員 今後のことで、ちょっとよろしいですか。

○市長 はい、どうぞ。

○藤原委員 市長さんが締められた後で申し訳ないんですけど、一定の水準の言葉というのは、これは学校現場はやはり大事にしないといけないと思うし、合い言葉にすると。それが偏差値であったときにも合い言葉にしたいなど。そのときに多分我々がしないと、教育委員会がしないといけないのが、学習指導要領に示されているのが最低基準なのに、そこに達成がいないというところが問題じゃないかなと思うので、その偏差値を掲げるにしても、今度は我々の立場のほうでしっかり知らせないといけないかなと。あわせて、教育大綱ができるということは、市長さんのお力もおかりして広く示すことが必要かな。今後のことでちょっと感じましたので。

○市長 はい、ありがとうございました。ほかによろしいでしょうか。

先ほど申しあげましたけれども、今後もそういう今のこの2つの柱だけでなく、さまざまな議論があります。そして、柱についてもフォローアップをしていかなきゃいけないと思いますので、この総合教育会議、これからも開かせていただきたいというように思っておりますので、よろしく願いをいたします。

では、事務局にもうバトンタッチしますが、事務局、よろしいですか。

○司会 ありがとうございました。

次回の会議は改めて通知をさせていただきます。

以上で平成28年度第5回岡山市総合教育会議を閉会いたします。ありがとうございました。